

会議録

会議の名称	平成25年度 第6回環境審議会
開催日時	平成26年1月27日(月曜日) 午前10時から11時30分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室1
出席者	委員：加納委員、勝村委員、井野委員、宮加谷委員、田辺委員、渡部委員、伊藤委員、齋藤委員、二宮委員、清水委員 事務局：湊みどり環境部長、東原環境保全課長、田中みどり環境部主幹、松下主事、本谷主事 傍聴人：1人
議題	1 開会 2 議題 (1)第5回環境審議会会議録の確認 (2)パブリックコメントについて (3)西東京市第2次環境基本計画の確認 (4)西東京市第2次環境基本計画（答申）について (5)その他 3 閉会
会議資料の名称	資料1 会議録案会議録案（平成25年度第5回環境審議会会議録） 資料2-1 パブリックコメント結果 資料2-2 市民説明会意見（参考資料） 資料3 西東京市第2次環境基本計画 資料4 西東京市第2次環境基本計画（答申案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>議題(1) 第5回環境審議会会議録の確認について</p> <p>○事務局： 修正点の説明（資料1の説明） 一同了承</p> <p>議題(2) パブリックコメントについて</p> <p>○事務局： 説明（資料2の説明）</p> <p>議題(3) 西東京市第2次環境基本計画の確認</p> <p>○事務局： 説明（資料3の説明） 一同了承</p>	

議題(4) 西東京市第2次環境基本計画(答申)について

○事務局：
説明(資料4の説明)
一同了承

議題(5) その他

会長：
本日は本計画が完成する前の最後の環境審議会である。本計画を策定する中で感じたことなどをお一人ずつ発表していただきたい。

井野委員：
環境というのは一挙に解決することは難しく、中国の大気汚染等の状況を見ると普段からの市民の継続的な取り組みや、ルールを守ることが大事であると感じる。
今回、個々の分野で細かく内容を精査し、計画の策定を進めてきた。今回の内容が実行されることが大事である。そのためには、市民に本計画を認知してもらうことが必要であると思う。

田辺委員：
一番印象に残ったことは、昨年秋、西東京いこいの森でのイベントに参加した際、多くの人が参加していたことである。参加した市民の目的はそれぞれだと思うが、参加者が生き生きして良い催しだと思った。

パブリックコメントは、きちんとした意見ではないといけなのではないか、どこまで責任を持つか、勉強不足ではないだろうか、と考えて構えてしまう。一方で、イベントに行くことによって、自分が知ることが出来たり、活動している人の様子を見たりすることは、お互いが学んで、新たに環境に対する関心を向けることとなり、気軽に参加できて良いことだと思う。西東京いこいの森でのイベントのような機会を広げていくことで、環境に関心を持つ人も増えるのではないかと。

長年、マンションの管理組合の役員をしているが、ゴミ問題等環境に関する問題が最近出てきた。改善のためには言い続けていくことが大事であると思っている。西東京市の環境の保全についても同様であると思う。

宮加谷委員：
自分は環境問題に興味があると思っていたが、環境審議会に参加して、自分が行動していなかったことに気づいた。本計画の中では、市民と行政がどのように協力していくかを考えていこう、というところまで発展したことがとても良かったと思う。本計画を読み直して自分自身の今後の取り組みに活かしたい。

渡部委員：
今回の会議は、西東京市民として目覚めるきっかけとなったと思う。長年、理科の教師として保谷市で教鞭をとり、自然を教材として授業を行ってきた。その後、市民として体験農園で野菜を栽培した際に環境問題が逼迫していると感じた。

環境審議会のメンバーになってから、市内を見て回り、公民館等も積極的に訪れた。市民説明会での意見にもあるとおり、自然をどのように捉えるかということを考えることが大事だと思う。

宅地化が進み、道路が増えることで便利になった反面、自然との関係が希薄となってきている。例えば、東伏見稲荷神社の水辺は以前と比較すると悪くなっている。市民が自然を見守っていくということが大事であり、今後、本計画をどのように運用していくかが非常に気になる。

市民として何かできることはないだろうか、という意識に目覚めて良かったと思う。これからも計画の進捗を見守っていききたい。本計画が市民にとって身近な環境を見直したり、考えるきっかけになるとよいと思っている。

二宮委員：

環境審議会に半分も参加できずに申し訳なかった。

本計画はよく整理されていて、市民に受け入れやすい内容となっていると感じたが、大事なのは今後どう運用していくかである。

東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構としては、単なる公園ではなく、地域にある大学としてそれ以上の貢献をしていきたいと考えている。

清水委員：

昨年途中からの参加となったが、行政側の一人として環境審議会のメンバーとして加えていただき、策定に携わる事ができて良かった。

スケジュール的に出席回数が少なく、力になり切れず申し訳なく思っている。毎回、自分の持っている知識や経験を生かしたいと考えながら参加してきた。

環境問題は教育行政も関係しており、その中で教育委員会の小中学校を所管する自分が参加する意義はどこにあるか自問自答してきた。

環境問題は子ども達にとって一番身近な問題である。将来西東京市を担っていく人材に育ってもらうために、環境審議会で学んだことについて、各学校の校長、副校長、先生方に働きかけて、少しでも子ども達が自分たちの暮らす地元の自然環境に関心を持ち、知識を増やし理解を深めてもらうように積極的に働きかけていくことが大事である。

何らかの形で、自然環境への関心を学校で広げていくことが自分の仕事と考える。現在環境保全課は、環境読本の配布や出前授業の実施、ゲストティーチャーの派遣等により学校との連携を深めており、学校から感謝をいただいている。環境審議会メンバーとして、貴重な経験をさせていただいて感謝している。

伊藤委員：

事業者として環境審議会に参加した。途中、参加できなかったこともあり申し訳ない。事業所がたくさんある中で今回声を掛けていただいたのは、我が社がエコアクション21を取得していたからではないかと思っている。アースデイフェア in 西東京にも3年連続で参加している。

今までは、1つの事業者の視点で動いており、市が環境保全のために何に取り組んでいるか全体像を見ながら動いていたわけではなかった。今回の環境審議会に参加することで勉強になった。今後は他の事業者とともに、環境問題にどのように取り組んでいくかが課題である。これからは市報などを通じて環境に関心を持ってほしいと思う。

齋藤委員：

本計画の目玉は環境保全推進協議会である。市民・事業者・行政の連携が具体的に決まってきたと思う。環境保全推進協議会の設置に関する環境審議会の答申から、時間が経ち過ぎた感じがあり、残念ではある。もう少し早ければ西東京市が環境の面で先進的であるとアピールできたと思う。平成26年度から市の環境行政の中心となるような位置づけで進めていただきたいと思う。

副会長：

私は東京都自然環境局自然保護部の職員として、「東京都における自然の保護と回復に関する条例（自然保護条例）」の制定に関わってきた事もあったが、今回はそれに勝るとも劣らぬ良い計画になっており、それに携われたことに感謝する。

会長：

2年前に就任し、皆様のご協力のもと計画が形となったことは大変喜ばしい事である。目標を10年以内に達成する事はもちろんであるが、市民の環境に対する要望、意識を汲み上げて、10年後に西東京市の環境は優れている、住んでみたいということになっていると良いと思う。今後の環境審議会においてもサポートをお願いする。

事務局：

皆様のご協力のおかげで計画が形となったことを感謝する。平成24年7月から計12回の環境審議会を開催しており、比較的多い開催回数である。皆様のご意見を踏まえながら、丁寧に策定できたと思う。

今後、様々な場面で審議をお願いすることもあると思うので、その際にはご協力をお願いしたい。本計画で示している内容を地域で質問されたらPRをお願いしたい。

積極的にご意見を出していただいたおかげですばらしい計画ができた。今後は環境保全推進協議会をうまく活用して計画を推進していきたいと思う。環境保全課で、来年度から力を入れて環境保全推進協議会の運営を行っていきたいと思っている。

会長：

今回の環境審議会メンバーの任期は6月末までである。今後の環境審議会は、年1～2回のペースで開催され、計画の進捗の報告を受け、その内容について審議する役割を担うことになる。平成24年7月から長い間のご協力を感謝する。

3 閉会

会長：

本日の環境審議会は以上で終了する。
以上